

# 令和6年度農作物病害虫発生予察技術資料第9号

令和6年(2024年)10月1日  
山口県病害虫防除所

## 野菜・花き類のハスモンヨトウの防除の徹底について

ハスモンヨトウの発生が多いのため、防除対策の徹底をお願いします。

### 1 発生状況と今後の予測

- (1) 9月下旬の巡回調査(キャベツ)では、発生ほ場率72.7%(平年29.6%)、寄生株率11.3%(平年2.4%)で平年に比べ多かった(図1)。
- (2) 9月下旬の巡回調査(イチゴ)では、発生ほ場率12.5%(平年16.8%)、寄生株率0.8%(平年0.6%)で平年並みであった。(図2)。
- (3) 県内5カ所のフェロモントラップによる8月21日～9月20日の誘殺数合計は、13,432頭(平年8,648頭)で平年に比べやや多かった(表1、図3)。
- (4) 福岡管区气象台発表の1か月予報(9月26日)では、気温は高いとされており、本虫の活動に好適な気候が続くことにより、今後の発生が助長されると見込まれる。

### 2 防除対策

- (1) ほ場をよく観察し、発生及び被害が認められた場合には直ちに防除を行う。  
黄褐色の毛で覆われた卵塊(写真2)や若齢幼虫が集中した葉を見つけた場合は、捕殺するとともに薬剤防除を実施する。
- (2) 防除薬剤は、薬剤感受性検定結果を参考に選定する(図4)。

### 3 防除上注意すべき事項

- (1) 中齢から老齢幼虫は薬剤の効果が低下するので、若齢幼虫期の防除を徹底する。
- (2) 多くの薬剤に抵抗性が発達しているため、散布後には効果を確認するとともに、同一系統薬剤の連用は避ける(図4のIRACコード参照)。
- (3) 施設栽培では、ハスモンヨトウは葉の裏や鉄骨パイプ等の高い位置に卵塊を産卵することが多いので注意する。
- (4) 農薬を使用する際には使用基準を遵守し、適正な散布作業を実施する。

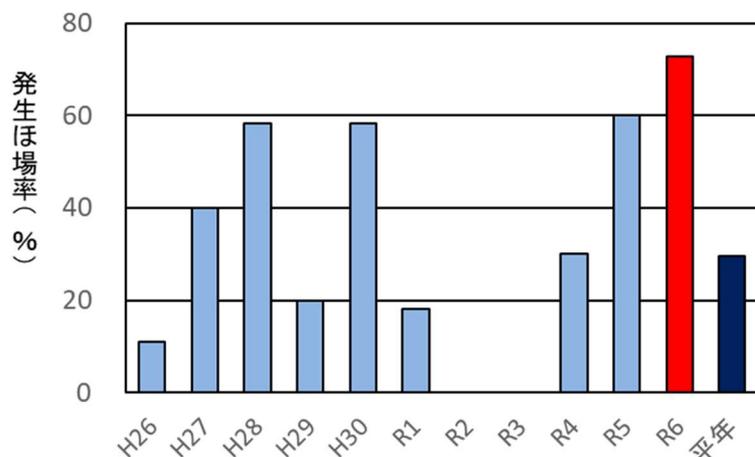


図1 キャベツのハスモンヨトウの発生ほ場率の年次比較(9月下旬)

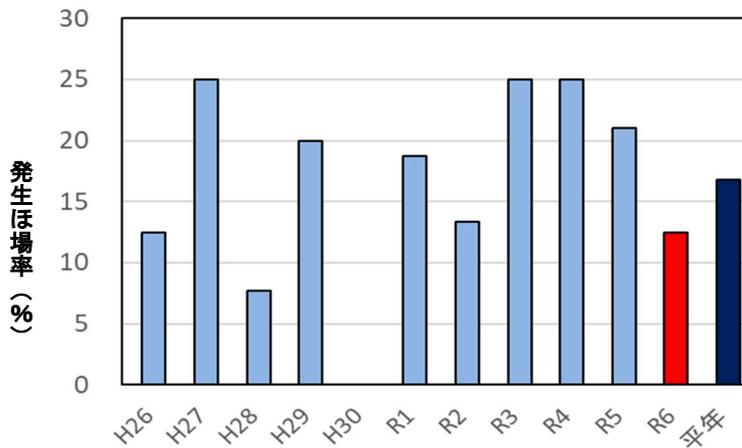


図2 イチゴのハスモンヨトウの発生ほ場率の年次比較 (9月下旬)

表1 フェロモントラップでの誘殺数 (頭)

地点	本年	平年
周南市熊毛	6,274	3,057
山口市阿東	1,195	999
萩市明木	119	198
下関市清末	2,942	2,020
柳井市伊陸	2,902	2,370
合計	13,432	8,644

※8月21日～9月20日の合計

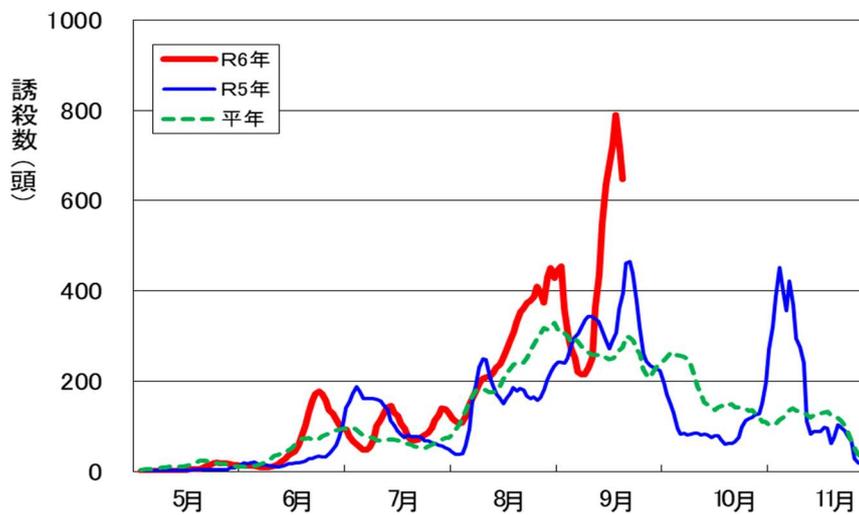


図3 フェロモントラップにおけるハスモンヨトウ誘殺数の推移 (県内5か所)

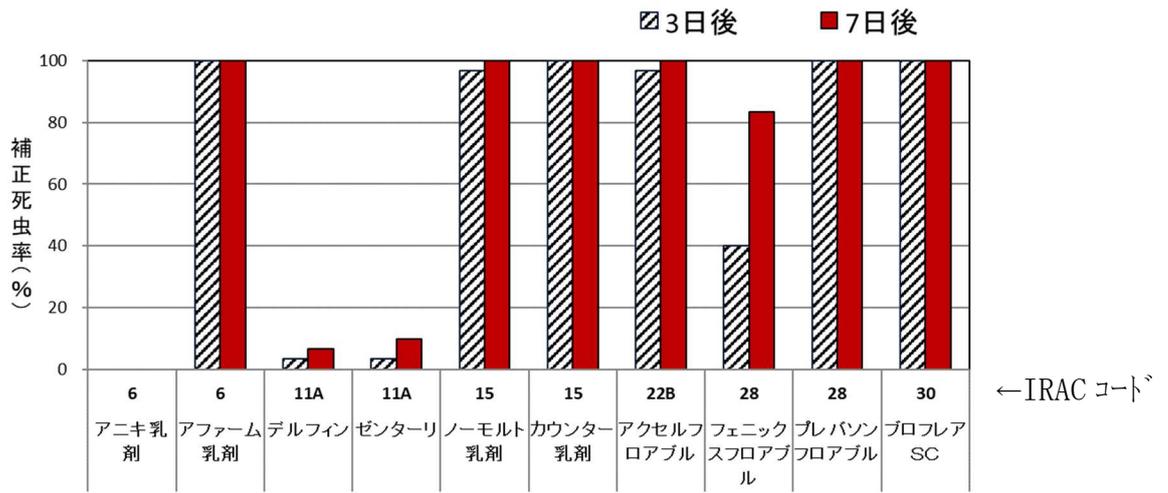


図4 ハスモンヨトウの薬剤感受性検定結果（令和5年：食餌浸漬法）  
注）防除効果は補正死虫率が100に近いほど高い



写真1 ハスモンヨトウによるキャベツの被害



写真2 ハスモンヨトウ卵塊（葉裏）



写真3 ハスモンヨトウ成虫



写真4 ハスモンヨトウ老齢幼虫